# 科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号: 3 2 6 8 9 研究種目: 挑戦的萌芽研究 研究期間: 2016~2016

課題番号: 16K13247

研究課題名(和文)外国人受刑者に対する矯正処遇プログラムのための日本語教育プログラム改善

研究課題名(英文)Japanese language program for correctional treatment for foreign inmates

#### 研究代表者

宮崎 里司 (Miyazaki, Satoshi)

早稲田大学・国際学術院(日本語教育研究科)・教授

研究者番号:90298208

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、国内の刑事施設に収容されている外国人受刑者(F指標)への矯正処遇における日本語指導プログラムの導入や改善を目的とした基礎データの収集および提言に基づき、矯正行政及び受刑者の改善指導を行った。その結果、国際対策室が設置されている、6カ所の刑事施設(府中、横浜、大阪、名古屋、福島、栃木)の職員を中心にした、日本語指導プログラム検討会議を設置し、成果物として、「外国人受刑者に対する日本語指導用ワークブック」を作成した。この成果は、外国人受刑者の心情把握や施設内での懲罰の減少にもつながり、処遇職員とのコミュニケーションを円滑に遂行させ,施設職員の接遇能力の向上にもつながるものである。

研究成果の概要(英文): The research aims at investigating correctional treatment for foreign inmates focusing on language policy and planning in Japan.More than 5,000 foreigners arrested every year for committing crimes, 90 percent of them were living in the country legally, while illegal immigrants accounted for only a small portion.Therefore correctional treatment, particluarly L2 Japanese education should be essential countermeasure for them.The researcher examined imprisoned foreign inmates L2 Japanese issues under the support of Ministry of Justice, Japan then undertook Japanese language work book so that they can learn for prison work and education.Foreign countries such as have undergone and experienced serious difficulties in accepting immigrants in the last few decade. In this sense, L2 education in prison undoubtedly plays an important role to make un/less skilled foreign wrorkers necome prospective tax payers after being released.

研究分野: サスティナビリティ、言語政策、日本語教育

キーワード: 日本語教育 矯正処遇 外国人受刑者 移民政策 リテラシー

## 1.研究開始当初の背景

平成 27 年版犯罪白書によると、外国人受 刑者の窃盗・強盗事犯者のうち、比較的刑 期が短い居住資格の出所者の約8割近くが 国内滞在し、外国人受刑者に占める有前科 者や刑務所再入者の割合も増加している。 こうしたことから少なくとも、出所後に在 留特別許可を受け、日本社会で暮らすこと になる外国人受刑者 (居住・定住型)につ いては、日本人受刑者と同様に円滑な社会 復帰・再犯防止に向けた処遇や支援が求め られている。また、同白書は、外国人受刑 者に対する処遇や支援のあり方として、 就労支援を充実させる必要があること、 基礎学力やその前提となる日本語能力の向 上への取り組みが必要であること、 交友等からの離脱指導が重要であること、

居住・定住型の外国人受刑者による窃盗や覚せい剤事犯は日本人受刑者と同様に再犯リスクが高いので、再犯防止プログラムを実施する必要性が高いこと、 地域社会における相互理解や共生に向けた努力が重要であることを挙げている。しかし、刑事施設の現状を見ると、外国人受刑者に対する処遇や支援に関する意識が職員全体では低いように思われる

#### 2.研究の目的

本研究では刑事施設職員の意識に着目し、 外国人受刑者の円滑な社会復帰・再犯防止 に向けた日本語教育の必要性を明らかにし ていく。

# 3.研究の方法

調査の方法は、法務省矯正局成人矯正課の 職員や外国人を収容している全国の刑事施 設の職員の協力を得て、現場の実態をフィ ールドノートに詳細に記録し、聞き取り調 査(非構造化インタビュー、半構造化イン タビュー)も同時並行的に行った。これま でに調査した刑事施設は、国際対策室を設 置している府中刑務所、栃木刑務所、横浜 刑務所、和歌山刑務所、京都刑務所、そし て松本少年刑務所などである。また、刑事 施設以外にも、国連アジア極東犯罪防止研 修所や法務省矯正局成人矯正課主催の日本 語指導に係る研修を視察した。さらに、法 務省矯正局成人矯正課が外国人処遇に携わ る刑事施設の職員( 処遇部門、 作業部 門、 教育部門、 医務部門、 国際対策 室に所属する職員)に対して行い、日本語

指導に係るアンケート調査も閲覧することができた。この調査を見ると、日本語指導は「必要だと感じる」という意見が多数を 占めているものの、その理由は幅広いものであった。

例えば、 では受刑者の心情把握、施設の 保安、生活指導・作業安全衛生教育・反則 行為の教示、 では作業指導・機械操作・ 安全遵守事項等の説明、職業訓練、 では 円滑な受刑生活、再犯防止、職員との信頼 関係の構築、心情の安定、改善更生、出所 後の日本での合法な就労の促進、 では医 療上の指導、受刑者の病状把握、医療上の 措置等の文書による説明・署名要求、 で は願箋等の記載、適切な矯正処遇などが挙 げられていた。そして、出所後に退去強制 される者(帰国型)と、出所後に在留特別 許可を受け引き続き日本に在留する者(居 住・定住型)との日本語指導の違いについ ては、「違いはない」とする意見が多数を占 めていた。このように、法務省矯正局では 外国人受刑者の円滑な社会復帰に向けた日 本語教育の必要性が認識されているが、刑 事施設の職員の中でその必要性を認識して いる者は少数派となっている。そもそも矯 正処遇は受刑者の改善更生・再犯防止の観 点から、日本人受刑者に対するものと同様 に外国人受刑者に対しても公平に行われる べきものである。そこで、本研究では、出 所後に引き続き日本に在留する外国人受刑 者が少なからず存在する現状を示し、改善 更生や再犯防止の観点を含め、彼らの円滑 な社会復帰(居住地を定め、就労先を見つ け、独立した生計を営み、かつ、職場や居 住地域で良好な人間関係を築くこと)に向 けた日本語教育の必要性について、刑事施 設職員の意識に着目しつつ明らかにした。 また、円滑な社会復帰を達成させるために、 どのような日本語教育が行われるべきなの かについて外国人受刑者の文脈に即し考察 した。

### 4. 研究成果

研究内容について、日本の刑事施設で外国人受刑者に日本語教育を行うことにどのような意味があるのかという、矯正処遇に係る基本的視座(日本語教育を通じて、外国人受刑者の円滑な社会復帰・再犯防止を目指す。)を示した上で、こうした基本的視座に立脚した日本語教育とはどのようなものなのかについて、以下に示す、外国人受刑者の文脈に即しつつ考察した。

【外国人受刑者に対する日本語教育を考察 していく上で留意しなければならないこ と】

広島刑務所逃走事故(法務省が日本語 教育の重要性を強く認識した事例)

> 消極的処遇主義と積極的処遇主義 積極的仮釈放政策

刑の執行後の退去強制手続

国際受刑者移送制度

刑事施設職員の日本語教育に係る意識 居住・定住型の受刑者の円滑な社会復 帰・再犯防止に向けた矯正処遇の必要性

【外国人受刑者に対する矯正処遇と日本語 教育】

刑務作業・職業訓練

改善指導(一般改善指導、特別改善指導)

教科指導

多文化共生社会の実現に向け、法学、社会学、心理学、教育学などの他の研究分野から、刑事施設での外国人受刑者に対する日本語教育の必要性が指摘されてきた。しかし、日本語教育学においては、法務省の管轄ということもあるのか、それについて未だ十分な調査研究が行われていない状況にある。そこで、刑事施設ではどのような

意識(基本的視座)の下、どのような日本 語教育を行っているのかについて、実際に 現場を視察し、日本語教育に携わる職員か ら聞き取り調査を行いつつ検証していく。 また、以下の2つの場面で使用される日本 語の違いに留意しながら、居住・定住型の 外国人受刑者に必要とされる日本語教育と はどのようなものなのかを明らかにした。

刑事施設での通用語としての日本語 刑務作業、改善指導、教科指導、心情や健 康状態の把握、権利義務や安全に係るやり 取りなど

円滑な社会復帰・再犯防止に向けた日 本語

居住地・就労先を定めること、独立した生計を営むこと、良好な人間関係を構築する こと

そして、外国人受刑者の中には、日本に在 留している家族(JSL児童など)を持つ者 がいるので、これまで研究されてきた日本 語教育の大きな傘(日本語教育を通じた、 日本社会とのつながり)の中で、外国人受 刑者の日本語教育の問題を捉えていく必要 があると考えている。そこで、JSL 児童、 EPA による看護師・介護福祉士候補者、留 学生の日本語教育など、関連領域に係る文 献も読み進めていき、外国人受刑者の日本 語教育と関連領域の日本語教育との共通性 (普遍性・一般性)を理解した上で、外国 人受刑者の日本語教育の特殊性(個別性・ 実効性)について具体的に考察していく。 さらに、2016年度から、法務省矯正局成人 矯正課と申請者の研究室が協働で、外国人 受刑者に対する日本語教育プログラムや、 矯正処遇担当者のための日本語教育指導者 研修などの企画・立案を開始した。以下の ような要領の下、作成に当たった。

外国人受刑者に対する日本語指導教材作成

#### 要領

1 教材の目標

職員の負担にならず,使いやすいも の

~ 居室投げ込み用として開発し,場合 によっては講義等にも使えるもの

取り組むことで、外国人受刑者に 実際的なメリットがあるもの

~ 所内生活の便宜向上を第一目標とし, 社会生活に役立てることを第二目標とす るもの

単元0(局作成,単元1~6を始める前に取り組ませる導入的なもの)ひらがな・カタカナの練習(50音図含む),基礎的な日本語基礎 ひらがな・カタカナの書き取り

応用 基礎的な日本語(「わたし」「あなた」 「お願いします」など)

単元1 あいさつ・号令等

基礎 所内生活で用いるあいさつ・号令・ 動作 応用 社会生活で用いるあいさつ, 礼儀

単元2 遵守事項・所内規則

基礎 所内のルール

応用 社会のルール (日本独自のルール, 文化,慣習等)

単元3 居室場面

基礎 居室にある物 ,居室で見る・聞く(話す)言葉

応用 日本の家庭内で用いる言葉(家族を 表す言葉,家事,家電等の名前)

単元4 作業場面

基礎 工場にある物 ,工場で見る・聞く(話す) 言葉

応用 日本の職場で用いる言葉(職業の名前,お金の単位,電話応対等)

単元5 医務診察場面

基礎 体の部位,不調を表す言葉

応用 病気の名前,病院で使う言葉

単元6 運動・入浴・教育行事場面

基礎 運動・入浴場,教室等にある物,見る・聞く(話す)言葉

応用 スポーツの名前,入浴の作法,日本の年中行事の名前等

これらについては、法務省からの指示もあり、秘匿性もあるため、成果物として公表はできないが、外国人受刑者のための矯正処遇に資する教材として、2017年度、試行されている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

### [雑誌論文](計2件)

宮崎里司 2017「連続性と持続性からとらえた言語教育政策ーアウトリーチ型日本語教育支援から考える留学生日本語教育ー」、『新时期日语教育的协同与创新』102-121 頁 南开大学出版社

宮崎里司 2016「持続可能性からとらえた言語教育政策:アウトリーチ型ならびに市民リテラシー型日本語教育支援に向けて」、『教職学研究』第8号,35-53頁,早稲田大学大学院教職研究科

### [学会発表](計3件)

宮崎里司「多文化社会に揺れる移民先進 国の言語政策:オーストラリアの市民権 テストをめぐる課題を中心に」日本言語 政策学会第 19 回大会分科会 2017 年 6 月 18 日

Miyazaki, S. "Correctional treatment for prisoners in Japan: Articulation for a sustainable immigrant society" 19 July 2016, CRIMINOLOGY SEMINAR SERIES 2016, Monash University

Miyazaki, S. "Correctional Treatment for Foreign Inmates in Japan: Towards a sustainable immigrant society" 04 May 2016 Asia Institute Seminar Melbourne University

[図書](計件)

〔産業財産権〕

出願状況(計件)

名称: 発明者:

権利者: 種類: 番号: 出願年月日: 国内外の別:			
取得状況(計	件)		
名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号: 取得年月日: 取内の別:			
〔その他〕 ホームページ等 http://gsjal.j		aki/	
	日本語	AZAKI, Satoshi) 教育研究科・教授 08	
(2)研究分担者	(	)	
研究者番号:			
(3)連携研究者	(	)	
研究者番号:			
(4)研究協力者	(	)	